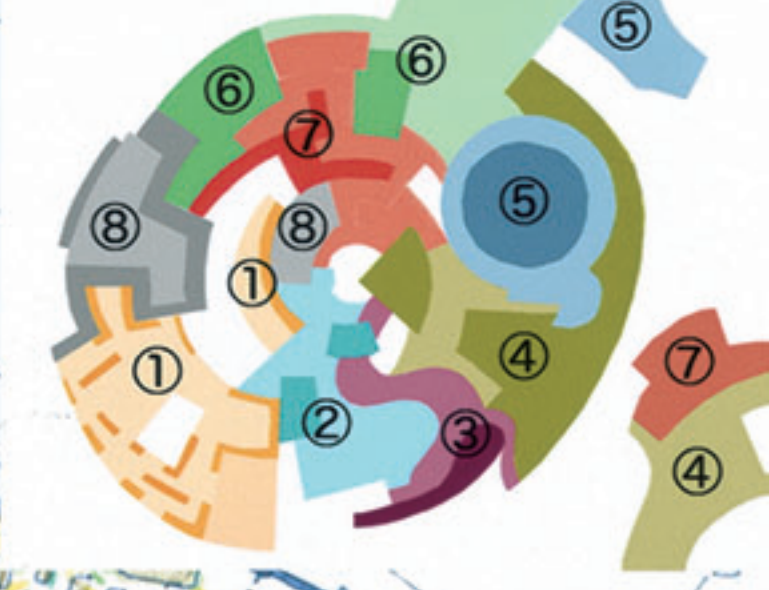


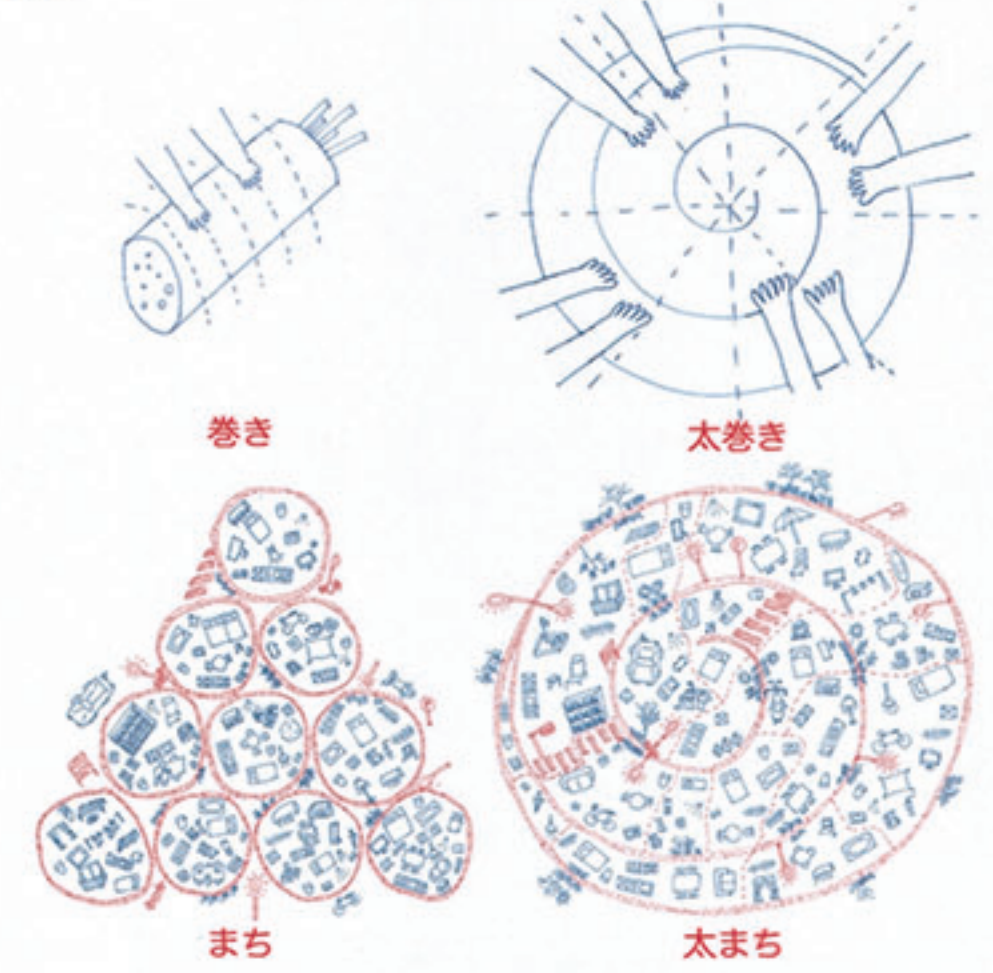
太まち

まちのような家

太まちのインデックス



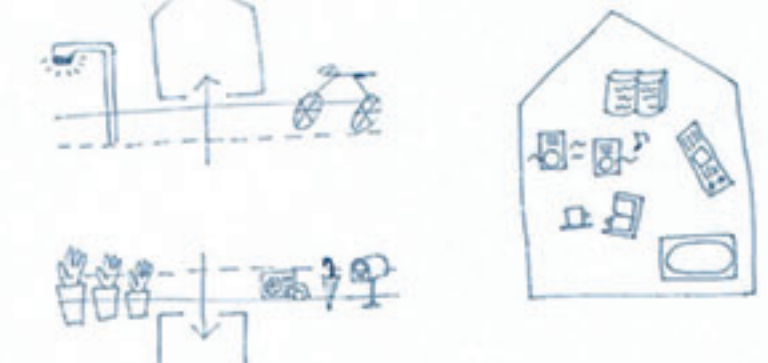
▼巻きと太巻き



太巻きをみんなで作ることを見て、「まち」の意味を学んだのである。私に「まち」という場所は、家が必要な機能が少し不完全に見える。自分の家で重要な価値を満喫するのができず、他の家を持っている価値を、道を歩きながら共感したり、直接に経験したりしながら、自分の家と比較もできることである。そして、その考えを近所の人々と話しながら、楽しく遊びに通うことができる場所。「太まち」という家は、いくつかの家に巻きかたて、自宅の価値を実現しつつ、その共有を通じて人々の交流が生まれる所である。一つの家が、一つのまちのような家と考えた。

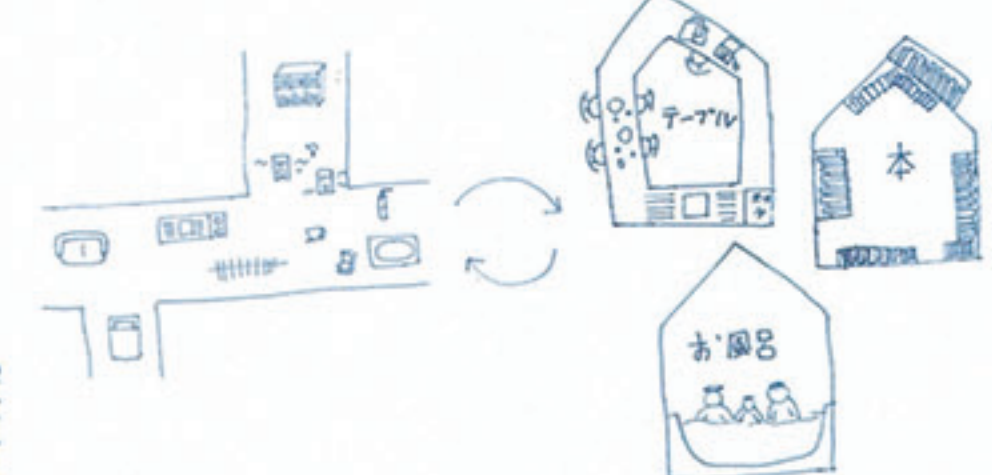
▼まちのような家について

1. みちと家



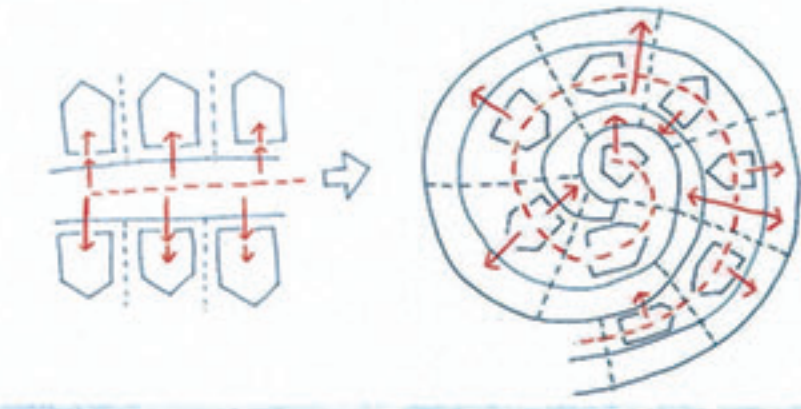
みちはみんなのための場所として、家と家の間を連結したり、個人の家の前の一部を出してくれたりもします。しかし、その一部が限定的なので、住居生活を積極的に取り出すことは大変だと思えます。それならその範囲の基準を少し広げて少しずつ(一つでもいい)取り出して、そのみちは定義されていないみんなのための場所がなく、それぞれの人たちが住んでいて、その人たちの生活感が感じられて、他人に対する気にかけることができる場所がなれると考えます。

2. みちのような家 + 家のようなみちのやり取り

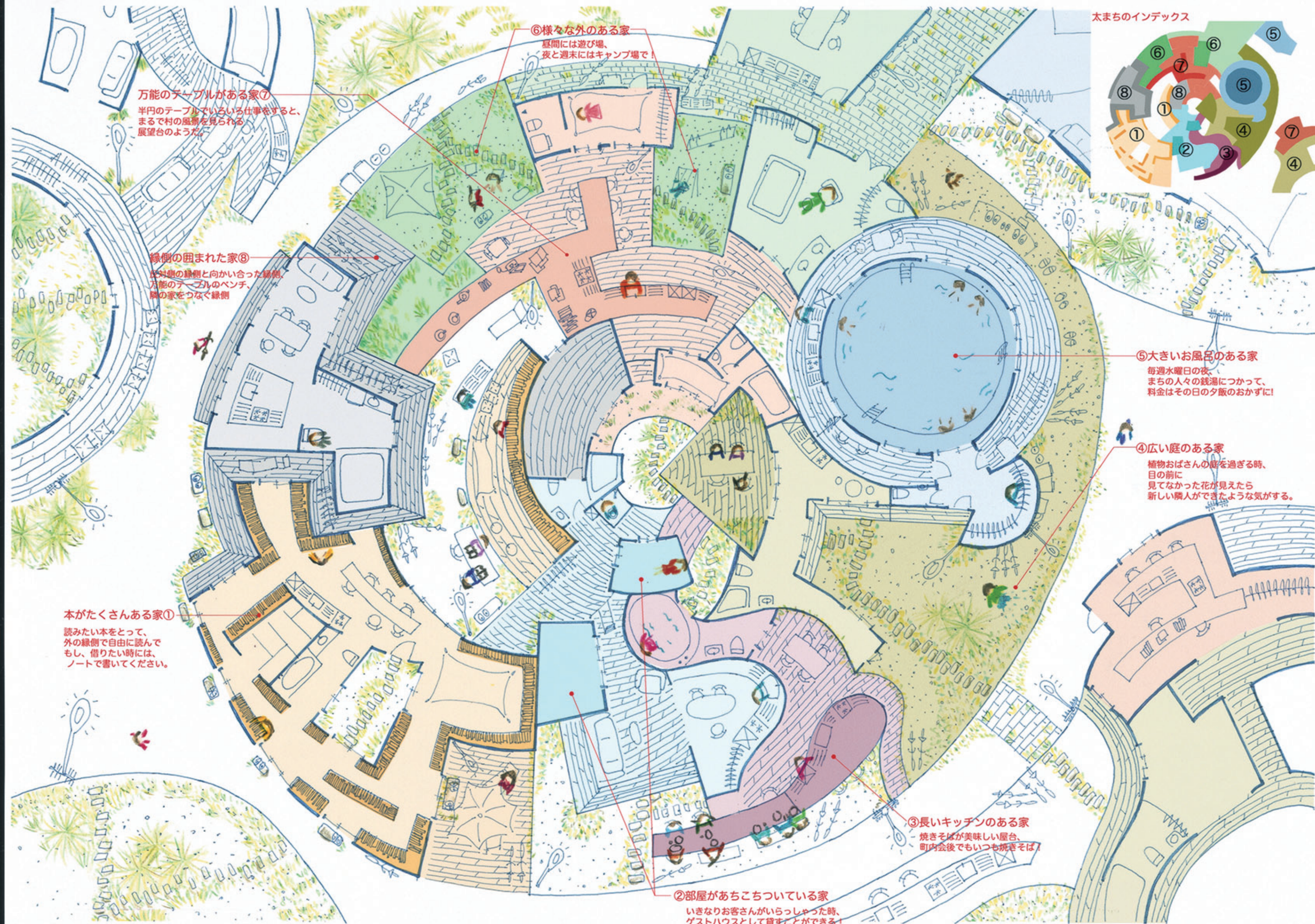


みちで積極的な生活感が感じられたら、自然に元の「家」が持つ場所は完璧に備える考えから自由になって、余裕が生まれます。それなら、それぞれが重要だと考える価値を取ってお風呂が大きな家、庭があちこちにある家、本の多い家、キッチンがすごく大きな家、家の中心になるテーブルのある家になります。都市にある銭湯、公園、書店、レストラン、カフェのような人々の集い場になります。まるで「一つの家」のように感じられるのを考えます。

3. みちの家 + 家のみちを一緒に太って巻くと、



家と家、道と道、道と家も自然につながるよう考えました。たとえば、退勤後は植物おばさんの庭を過ぎ、銭湯でお風呂に入ったり、自転車で本のおじさんの書斎で借りた本を返した後、おじさんが選別しておいた本を集めて外部の書庫から本を取り出して、反対側の縁側で本を読みます。週末には隣の家でお客さんがいらっしやってくれて、うちの一つの部屋を貸してあげると同時に掃除しておいて、代わりに私は友達の家でキャンプをするつもりです。この日課は私の家の中だけでなく、近所の家々を経由しながら成り立つのです。



⑦ 万能のテーブルがある家
半円のテーブルでいろいろ仕事をすると、まるで村の風情を見られる展望台のような。

⑥ 様々な外のある家
昼間には遊び場、夜と週末にはキャンプ場。

⑧ 縁側の囲まれた家
反対側の縁側と向かい合った縁側、丸部のテーブルのベンチ、隣の家をつなぐ縁側。

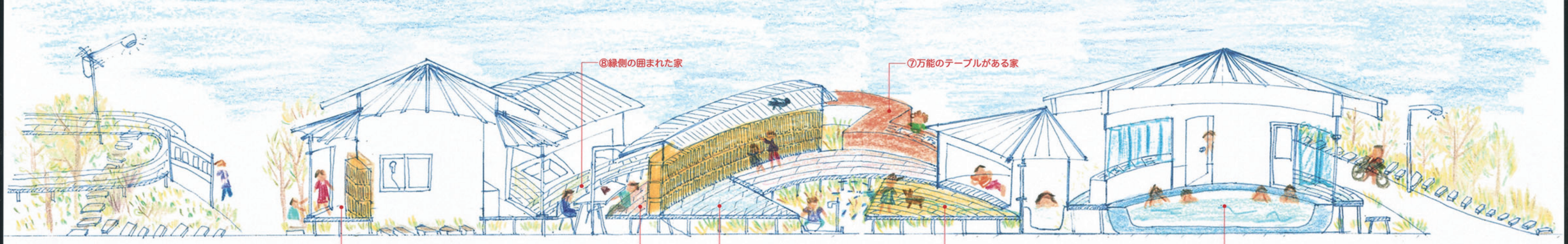
⑤ 大きいお風呂のある家
毎週水曜日の夜、まちの人々の銭湯につかって、料金はその日の夕飯のおかず!

④ 広い庭のある家
植物おばさんの庭を過ぎる時、目の前に見てなかった花が見えたら新しい隣人ができたような気がする。

③ 長いキッチンのある家
焼きそばが美味しい屋台、町内会後でもいつも焼きそば。

② 部屋があちこちついている家
いきなりお客さんがいらっしやった時、ゲストハウスとして貸すことができる。

① 本がたくさんある家
読みたい本をとって、外の縁側で自由に読んで、借りた時には、ノートで書いてください。



① 本がたくさんある家

② 部屋があちこちついている家

④ 広い庭のある家

⑤ 大きいお風呂のある家

⑦ 万能のテーブルがある家

⑧ 縁側の囲まれた家